

1. 2015年版 中小企業白書の要点

中小企業白書は、毎年国内の経済動向や中小企業・小規模事業者の動向を分析し、中小企業・小規模事業者の発展に資する情報の提供を行っている。2015年版 中小企業白書「～地域発、中小企業イノベーション宣言～」は、2015年4月24日に閣議決定された。今回の白書では、テーマとして「中小企業・小規模事業者間の収益格差の広がり」、「イノベーションの取組」、「人的資源」、「地域活性化に向けた取組」の4つがあげられている。以下各テーマについて概要を記載する。

【中小企業・小規模事業者間の収益格差の広がり】

大企業と中小企業の企業規模による収益格差については、中小企業・小規模事業者自身も認識している課題であるが、近年では、同じ企業規模間でも収益格差が広がりをみせている。

従来、下請・受託加工者として大企業が市場競争から勝ち取ってきた需要の恩恵を享受してきた中小企業・小規模事業者は、市場のグローバル化により大企業との依存関係が希薄化してしまったことで自らが市場と向き合い、他者との競争に勝ち抜かなければならなくなってきた。このような、環境変化に適応し能動的に市場と向き合い需要を獲得できている中小企業・小規模事業者とそうでない事業者の間で収益格差が広がっている。

本白書では、その取引構造の変化を分析するとともに高収益企業と低収益企業の経営と取組に差があるかを掘り下げ、収益獲得にむけた中小企業・小規模事業者の経営課題を提起している。

【イノベーションの取組】

企業にとってイノベーションこそが成長の源泉であり、中小企業・小規模事業者においても、日々新たなチャレンジに取り組む事業者ほど収益力が高い傾向が見られた。

本白書では、中小企業・小規模事業者のイノベーションについて、事業において志向する商圏の広がりごとに類型（具体的には、広域の事業者を「広域需要志向型」、所在地域での事業を志向する事業者を「地域需要志向型」とする。）した上でそれぞれの取組状況や成果について、違いや共通点を明らかにしている。また、企業がイノベーションに着手し、推進していくための課題について検証を行っている。

【人的資源】

中小企業・小規模事業者にとって人材は何物にも代えがたい貴重な資源である。しかしながら、国内景気の回復による雇用環境の改善が進む中で、中小企業・小規模事業者は、量的・質的に人材不足に直面している。特に、企業経営の中核を担う専門人材が、研究開発・営業・ITなど多岐にわたる分野で不足している。このような人的資

源の枯渇は、中小企業・小規模事業者が自ら市場競争に向き合っていくことやイノベーションを推進していく中で看過できない大きな課題と言える。

本白書では、中小企業・小規模事業者の人的資源に関する現状と課題について、採用から定着、育成と人的資源管理の段階ごとに検証を行っている。更に女性・シニア・外国人・UIJ ターンなど多様な人材の供給源についても紹介し、人的資源の充実に向けた中小企業・小規模事業者の課題解決に向けた効果的な取組例など紹介している。

【地域活性化に向けた取組】

地方創生への取組が国を挙げた施策として実施される中、中小企業・小規模事業者の成長・発展においても地域活性化は重要な課題である。しかしながら、地方ごとに地域経済は多様化しており特定の産業が地域をけん引していく事が難しく、地方ごとに抱える課題も一様ではない。

このような状況の中で、本白書では地域固有の資源（地域資源）の活用状況や、その商品化や売込に関する課題を分析し、事例を交えながら地域活性化の取組を検証している。また、地域活性化に対する中小企業・小規模事業者の関わり方、地域をまとめ地域活性化を担う「地域商社」として各種団体の果たす役割について提言している。